

泉会

IZUMIKAI

2014 No. 30

◆発行日◆ 2014年4月25日

東洋大学理工学部建築学科同窓会会報「泉会」

題字：故 平山嵩先生

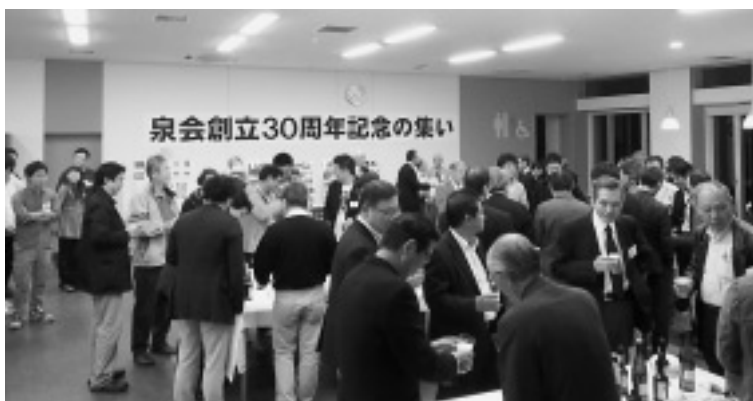
<http://www.izumikai.info>

「泉会」創立30周年記念の集いを開催

平成25年10月25日

会長 中山 秀明

「泉会」は昨年創立30周年を迎え、OB、教職員、歴代OB、をお迎えし教職員、現役学生を交え記念事業、祝賀会を行いました。当日は季節はずれの台風が来るとの予報がありましたが、無事に挙行することができました。当日の内容としてはまず、川越キャンパスも近年、生体医工学科の新設や箱根駅伝の優勝などに伴い新しい校舎や陸上部の合宿所や新しい建物が沢山できてきているため、「キャンパスツアー」を行い新しくなった川



越キャンパスの見学会を開催いたしました。また、学科と共同で建築家「妹島 和世」さんの公開講演会を行い現役学生、他校の学生も交え多くの参加を頂きました。祝賀会では上杉 啓名誉教授、長澤 悟先生、長島 達夫 川越キャンパス連合育成会会長をお招きしました。約100人の出席を頂き、1期生の飯吉伸一氏のご挨拶に始まり終始お祝いムードの祝賀会となりました。今後40周年、50周年と迎えられるような「泉会」にしていきたいと考えておりますので皆様方のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。



目次	会長挨拶	2	TOPICS	20
	「泉会本部」からのお知らせ	3	同窓生だより	22
	寄附講座	17	役員組織図	26
	支部だより	18		



会員の皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。日頃より皆様方のご支援ご協力に感謝申し上げます。

昨年は「泉会30周年記念の集い」が挙行され多くの方々のご出席を賜りまして有難うございました。今年は会長2年目の年となりました。昨年の反省をもとに昨年同様に様々な活動を通じて学生支援を行っていく所存でありますので宜しくお願い致します。また「泉会」の活動は学内と一体となった活動が不可欠であります。それには、学内の運営の様子を良く知っている学内に関わりのあるOBの方々の協力が今まで以上に必要になると思われまますので宜しくお願い致します。

また、各支部の皆様におかれましては日頃よりお世話になります。また、総会にも遠方にもかかわらずご出席をいただき有難うございます。

本年も様々な学生支援、OBの相互の交流などの事業を予定しておりますのでご支援ご協力を宜しくお願い致します。

新役員紹介



副会長 須貝 重義 (32期)

この度、泉会副会長を仰せつかりました32期の須貝重義と申します。

大学卒業後、留学、設計事務所等を経て2009年に自身で設計事務所の主宰。それを機に建築学科の非常勤講師のご用命を頂き、再び大学に通うようになりました。

設計業務を進めていく過程で幾多の専門業者と打ち合わせを行うわけですが、実に多くの東洋OBに出くわします。しかし、自身の名刺に「非常勤講師」という肩書を入れているからこそ相手も「実は私、東洋出身でして…」となるわけです。それなしでは、お互いに知らないままに別れてしまっていることも多くあったのではと思っています。

独立して何よりも大切だと実感したことはやはり、人と人とのつながりです。

泉会が、卒業生及び在校生の方々が気軽に参加できるコミュニティになるよう、尽力する所存ですので、ご指導、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

「泉会本部」からのお知らせ

◆平成25年度年間活動報告

月	理工学部(建築学科)「泉会」関連行事	泉会行事、会場、業務活動等
4	新入生オリエンテーション4/1～5、 入学式：4/6 授業開始：4/8 「泉会」寄附講座開始：水曜日15回 (4月～7月)	・新入生オリエンテーション会長祝辞(4/2) ◇拡大三役会 4/2(火) 於：川越校舎(スケジュール・会報関係) 準会員費集金及び記念品(三角スケール)贈呈(役員・学内幹事) 3、4年進級ガイダンスにて2級建築士模擬試験実施 ●「泉会」寄附講座開始 ◇三役会 4/24 池袋 ・平成24年度活動計画 他 ・連合育成会役員選出(代議員5名、各種常任委員5名、選管委員1名)
5		*4年生終身会費納入のお願い(各研究室、ゼミ長会議等) ・幹事会案内状メールでの発信 ◇三役会 5/1 川越キャンパス ・永峯先生退職記念パーティーにて記念品の贈呈 5/11 白山 ◇三役会 5/15 川越キャンパス ○幹事会 5/25(土)PM3:00～ 白山甫水会館
6	学祖祭 6/6	・川越キャンパス連合育成会代議員会：6月8日(土)15:00～ ◇三役会 6/12 川越キャンパス ○「泉会」総会・支部交流会 6/22(土)13:00～ 川越キャンパス 連合育成会大会、イベント(基調講演、パネルディスカッション) 幹事期同期会8、18、28、38期、連合育成会合同交流会 ・神奈川支部総会→6/30
7	第1回新入生歓迎建築パーティー	・建築学科まちかど講評会：7/20、21 1名表彰 ・新入生歓迎第1回建築パーティー(準会員支援)：7/24 第一会議室
8	夏休み 8/12～9/19	・徳島支部総会 ・30周年打ち合わせ 8/24白山キャンパス
9	9月卒業式・学位記授与式：9/19(木)	◆「泉会」建築学科合同懇親会
10		◎「泉会」創立30周年記念の集い 10/26 川越キャンパス
11	こもれび祭 11/3、4 研究室対抗ソフトボール大会	・連合育成会イベントへの参加 ・第16回「泉会杯」争奪研究室対抗ソフトボール大会(準会員支援) ・第1回建築パーティー(準会員支援)：11/29
12	冬休み 12/24～1/4 第2回新入生歓迎建築パーティー	◇三役会：12/6 建設業界説明会(総合資格学院と連携) ・OBによる就職セミナー：12/21 川越キャンパス
1	授業再開 1/6	平成26年度寄附講座講師選考 ◇三役会：会報編集会議 1/29 池袋
2	春休み 2/7～3/31	・卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考(準会員支援) 2/2、6
3	卒業式・学位記授与式：3/23	・3/23 卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与(準会員支援) 準会員終身会費集金作業

■主な事業活動項目と担当者

事業活動項目	担当者		
	担当三役員	学内幹事	連合育成会
泉会賞選考・授与、卒業生・新入生祝辞	中山 秀明	全員	
新入生オリエンテーション	全員	全員	
就職ガイダンス+懇親会	全員	全員	
幹事会	全員	木元 洋佑	
定期総会・支部交流・懇親会	斉藤 宏昭、伊藤 麻理	勝瀬 義仁、奥津 孝雄	事務員
広報・企画(会報『泉会』等)	寺山 誠、長谷部 勉	全員	
財務	松下 吉男	木元 洋佑	事務員
HP維持管理	長谷部 勉	松下 吉男	
名簿の更新	松下 吉男	全員	事務員
寄附講座	中山 秀明	藤井 弘義	

◆2013年度卒業設計 各賞決定



2月2日(日) 福利厚生棟にて本年度の卒業設計発表会が開催されました。昨年に引き続き公開形式の卒業賞選考会議を経て下記の学生が本年度の各賞を受賞いたしました。なお泉会賞は卒業設計発表会に参加した会員にて審議され決定いたしました。受賞作品を以下に掲載します。

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 泉会賞：内海健太 | PPPP—タナトスの礎 歴史的な文脈から考える小さなツーリズムの装置— |
| 金賞：石倉 瞳 | 彩りのドロワーインゲ—限りなく日常に近い生活— |
| 銀賞：押山玲央 | ネオポリスの旋律—ポスト工業社会と地方都市の将来像— |
| 高岩裕也 | 木学舎—木の建築を考える— |
| 銅賞：樺澤亨斗 | 幼稚園のお話。～サーバントスペースにつくこどもの世界～ |
| 水村祐太 | おばあちゃんの家 |

泉会賞

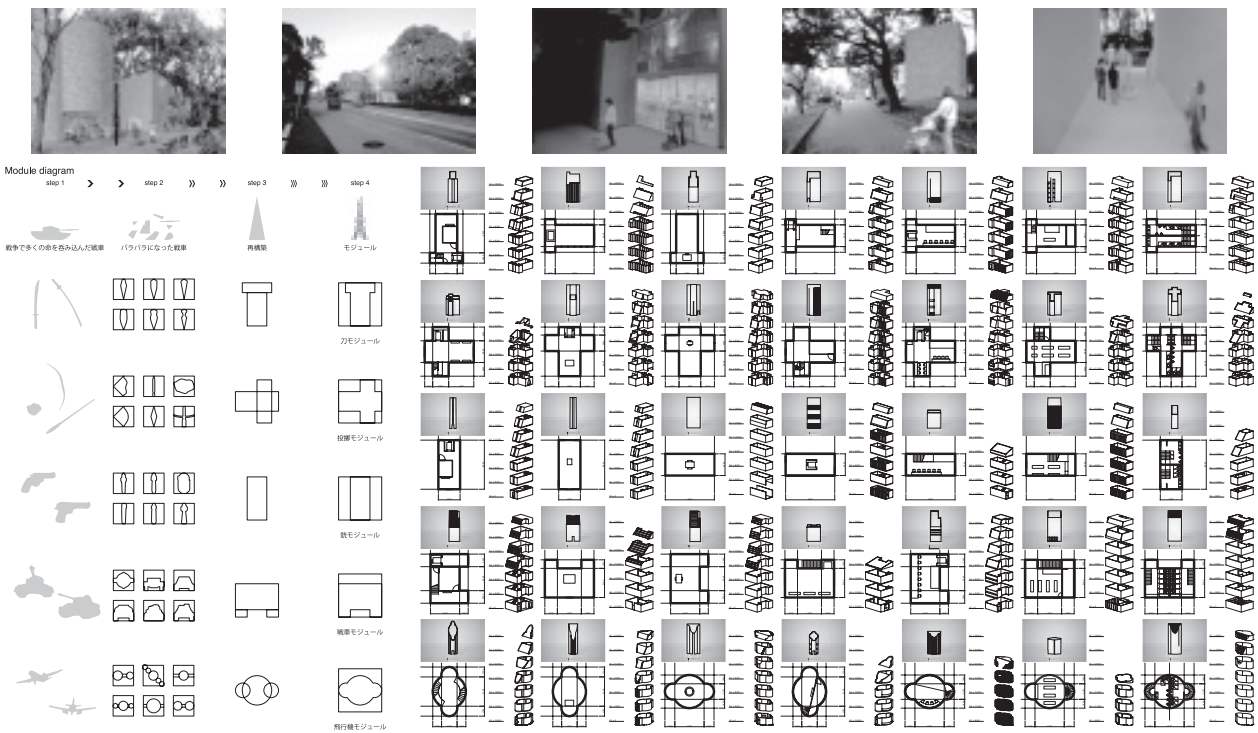


PPPP — タナトスの礎 歴史的な文脈から考える小さなツーリズムの装置 —

東京で最も古い歴史を持つ芝公園。
公園は環状に広がり、公園としての認識を失っている。
その公園一帯の歴史を紐解くと多くの死者が眠る地である事がわかった。
公園に寄り添うように立つ東京タワー—タナトスの塔は、皮肉にも戦争でたくさんの人の命を呑み込んだ戦車の鉄で作られている。
電波塔としての役目を終えた塔は、東京の悲愴な歴史を伝える塔として新たな役割を担い、
足下に広がる公園は歴史を継承し、風化に抵抗するダークツーリズムの場所としてよみがえる。



東洋大学
理工学部
建築学科
内海健太





彩りのドローイング
～限りなく日常に近い生活～
工藤和美研究室 石倉 瞳

私は、その子に残された僅かな時間をどのように過ごすのが一番幸せなのかを考えた。病院は、ある特徴的な雰囲気を作り出している。今まで様々な制限を受けていた病院での生活。その雰囲気は子どもには合わない。

2つの玄関が設けられた15戸の住宅。玄関から学校に通い、公園に行き、本を読みに行き、友達の家遊びに行く。お父さんが仕事から帰ってきてお母さんの夕飯を家族全員で食べる。

巨大な病院の要素を住宅に変換し、何の変哲もない日常を設計する。

計画敷地: 東京都国分寺市 建築用途: 小児ホスピス (共同住宅・診療所・交流施設)

現在の末期の子どもの生活場所の種類

在宅ケア型 病院の一室型 病院に隣接型 別荘型

diagram1:grit

大きな building

diagram2:way

ドアが並ぶ、直線の廊下

diagram3:house

均質な部屋

diagram4:roof

一律な室内

住宅の集合

住宅地は同じ大きさのボリュームが並んでいる。

住宅の集合

1区画は、トチノイで構成されている。

住宅の集合

それぞれの家族は独立し、それぞれの生活がある。

住宅の集合

一軒一軒がそれぞれの色を持つ。

提案

コンテラクトから1区画が平均12m角と密み取り、12mグリットを引く。

提案

3色1ピースとしてグリットにはあまる。

提案

roomをhouseにし家族も住まう。他の機能も1ボリューム1用途となる。

提案

ピースごとに屋根をかかげることによってそれぞれのピースに固有性が生まれる。

composition1

public semipublic private

composition2

composition3

composition4

ネオポリスの旋律～ポスト工業社会と地方都市の将来像～

藤村研究室 押山玲央

背景_ポスト工業社会と地方都市
映画「サウダージ」に描かれたように山梨県大月市は長く続く不況と空洞化の問題を抱えている。1970年から1995年にかけて多くの物語が描かれていたが、阪神淡路大震災やオウム真理教を期に物語を描かなくなってしまった。描いていた物語はとまり、物語のキャストたちは現実へ放り出され、目的を見失ってしまった。それらをもう一度物語へ戻すために、私は物語を描き、フィクションによって地方都市を救済する。

提案概要_私と地方都市
私は教祖となり、山梨県大月市にて押山教を立教し、押山教本山を設立。押山教本山には、宗教施設から学校へ、学校から押山の墓となり、最終的に大月市のシンボルとなるという100年の物語を建築に与えました。

2000

聖地
押山教が新たな聖地を開拓するために、山梨県大月市にある工業会社敷地を買収。大月市と押山教とは年に数回の協議会を行い100年の設計計画を進める。

2050

学園
二代教祖押山の意向により押山学園計画を提案する。押山学園委員会を設立し、押山教および大月市参加の年に数回の協議会が行われる。商業、公共、宗教が複合する施設となる。

2100

みんなの墓
山梨県大月市レオポリス計画が決定する。しかし、完成を待たずして押山は亡くなるが、計画そのものが信者、大月市の目標となり計画を進めていく。この施設はレオポリスの中心に位置し、押山および信者たちが眠る記念碑としての建築となる。

Structurel design & Timber studio 松野研究室

YUYA TAKAIWA 高岩裕也

木学舎 -木の建築を考える-

「木」には命がある。我が国では、古くから「木」を用いて建築物を構築してきた。今日の建築業界における「木を見て森を見ず」とはこうだ。「環境問題への関心はあり、木の建築を構築する事はしても、森林への理解は無い」である。

現在、「公共建築原則木造化」の法的な強制力による木材使用が叫ばれている。しかし、今日において、大・中規模木造の構造システムは確立しておらず、住宅システムの転用で踏み止まるケースが多い。それだけでなく、木の建築を学ぶ教育システムも少なく、木の建築思想は絶滅の危機にある。木の建築の「しつらえ」は変化してしまった。

そこで、このような問題を解決すべく、木の建築を学ぶ学校「木学舎」を提案、実現可能な木造架構システムを開発した。

“Mokugakusya” Member

Masashi Sinoda
Mizuho hosokoshi
Kohei Kurihara
Natsumi Takayanagi
Saki Fukano
Yuka Ohtake
Minami Yatabe
Miyu Suzuki
Zyun Inaba
Manami Takaiwa
Natsuha Sibano
Tomoya Miyauchi
Yuki Sakurai

Special Thanks!!

◆建築学科2013年度連続公開講演会を開催

東洋大学理工学部建築学科主催の連続公開講演会が昨年度に引き続き開催された。建築に興味のある高校生、専門学校生、大学生、大学院生、社会人の方を対象に本年度は平田晃久氏、星野裕司氏、妹島和世氏の3名をゲストにお招きし講演会を行った。



本年度は「新しいパブリックスペース」をテーマとし、現代の公共空間はどのように変化し、それに対してどのような考えが求められているのかを、それぞれが

取り組んだ公共施設を中心にプロジェクトを紹介していただき、討議が行われた。平田晃久氏は「からまりしろ」という言葉をキーワードに台湾・高雄のミュージックセンターコンペ案、釜石市の災害復興公営住宅のプロジェクトを中心としたこれまでの取り組みについて、星野裕司氏は「曾木の滝分水路」他、これまでのプロジェクトを通して建築とは異なる、景観デザインの視点から考える公共空間について、妹島和世氏は「ルーヴル・ランス」「犬島プロジェクト」他近作の紹介からパブリックスペースに対する自身の考え方の変化について、ご講演頂いた。

ワークショップなど市民参加が当たり前となった公共空間の計画。今まさに考えなくてはならないテーマに、討議後には多くの質疑がよせられ、活発な議論が展開された。

ゲスト：平田晃久、星野裕司、妹島和世
モデレータ：藤村龍至（東洋大学理工学部建築学科講師）
コメンテーター：工藤和美（東洋大学理工学部建築学科教授）
日程：2013年7月20日（土）18:00～20:00
2013年7月26日（金）18:00～20:00
2013年10月26日（土）15:00～17:00

ゲスト講師プロフィール



平田晃久／建築家・東北大学特任准教授

1971年生まれ。1994年京都大学工学部建築学科卒業。1997年京都大学大学院工学研究科修了。1997年～2005年伊東豊雄建築設計事務所勤務。

2005年平田晃久建築設計事務所設立。



星野裕司／熊本大学大学院 自然科学研究科環境共生工学専攻 社会環境マネジメント講座 准教授

1971年生まれ。1996年東京大学大学院工学系研究科 修士課程 土木工学専攻修了。(株)アルプ総合計画事務所勤務。

1999年熊本大学工学部助手。2006年より現職



妹島和世／建築家

1956年生まれ。1979年日本女子大学家政学部住居学科卒業。1981年日本女子大学大学院修了。1981年～1986年伊東豊雄建築設計事務所勤務。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とSANAA設立。

◆第12回まちかど講評会のご報告

今年度で12回目を迎える「まちかど講評会」が7月14日、15日の2日間に渡り、旧川越織物市場を会場に開催された。「まちかど講評会」は課題敷地を川越とした3年生の授業課題の学外展示会として、一般市民に公開する。

本課題は観光都市として発展した川越のこれから課題となる観光と市民生活の両立をテーマとして、観光客に対してのインフォメーション施設および市民の生涯学習コミュニティ施設としての「まちの学校」を、川越の伝建地区の3敷地を対象に新築のライブラリー、新築+既存改修のホール、既存改修のギャラリーの計画を提案した。

開催の2日間の中で延べ130名の来場があり学生は市民の声と向き合い、市民は今後の川越の展開を議論するよい機会となった。14日には建築家の成瀬友梨氏をゲストにお招きし、ゲストクリティークが行われ、中庭空間を利用した討議に会場は活気に満ちあふれた。今後も「まちかど講評会」を継続的に行い、企画展示にとどまらない、川越と関わる研究活動への発展を期待したい。



◆鶴ヶ島・未来との対話プロジェクト2013



平成25年度、東洋大学理工学部建築学科では大学院生の授業の一環として、鶴ヶ島市と養命酒製造株式会社の協力を得て、「鶴ヶ島・未来との対話プロジェクト2013」を実施致しました。以下ご報告させていただきます。

本計画は鶴ヶ島市と養命酒製造株式会社が取り組んでいた、養命酒製造工場跡地に建設された大規模太陽光発電施設に付随する環境教育施設の設計を依頼された事をきっかけに、大学院

の授業をベースにして設計チームを組み、木造平屋建て120㎡の規模で、環境教育および啓発、防災および減災の拠点形成、地域活性化などを目的とした施設の提案を行うものです。

鶴ヶ島市南公民館を利用して、来場者の皆様に投票と案に対する助言をしていただく「パブリックミーティング」を2013年の4月から7月にかけて5回にわたって行い、10案を3案に、3案を1案にというように、案を段階的に統合させ実施案を導きました。

企業と行政、大学が協働し、市民と対話を繰り返しながらまちの将来像を考える、新たな試みが、多くのメディアに取り上げられました。また、今回の設計案が「SDレビュー 2013」に入選し、東洋大学建築学科が全国的にも大変注目を集めました。

2014年3月1日に竣工を迎え、竣工見学会には住民の方々や建築関係者皆様のべ100名にご来場いただきました。

名称：鶴ヶ島・未来との対話プロジェクト2013
参加者：東洋大学ソーシャルデザインスタジオ
協力：鶴ヶ島市・養命酒製造株式会社
担当：工藤和美(東洋大学教授)
藤村龍至(東洋大学専任講師)
設計アシスタント 畑克敏、木元洋佑

建物概要

作品名 鶴ヶ島太陽光発電所環境教育施設
「eコラボつるがしま」
施工 鶴ヶ島市内協力業者JV
(柳川工務店+共和エンジニアリング
+木村設備工業)
敷地面積 499.00㎡
建築面積 127.82㎡
延床面積 127.82㎡
階数 地上1階
設計期間 2013年4月～2013年8月
施工期間 2013年9月～2014年2月



Photo_太田拓実



Photo_太田拓実

◆平成25年度 3、4年生に対する就職支援

建築学科では、泉会や川越キャンパス連合育成会のご協力のもと、3年生の就職支援を行っております。平成25年度は、求人活動が開始される12月よりイベントを開始しました。12月6日に、3年生、修士1年生を対象とした、建設業界企業セミナーを実施しました。また、12月21日(土)には、建設業界50社による就職セミナーを実施しました。これらについて紹介します。

■建設業界就職セミナー（協力：総合資格学院）

テーマ：業界研究・試験対策について

内容：建設業界の構造、建設業界以外の職種、採用側の着眼点、エントリーシート対策、面接対策、採用テストの種類等

参加学生：約80名



■建築学科及び「泉会」主催の3年生、修士1年生対象就職セミナー

日時：2013年12月21日(土)13:15～18:30

内容：

- 1) 卒業生によるパネルディスカッション……421教室
- 2) 会社説明会及び相談会……4号館第1、第2、第3会議室、工技研セミナー室
- 3) 就職懇談会……学生ホール食堂

支援：教学課就職支援室、川越キャンパス連合育成会

参加企業：50社、泉会関係者、合計約100名

参加学生：学部生104人、大学院生7名、合計111名



13時15分より、4名の卒業生（香山壽夫建築研究所：伊代田卓身氏（40期）、株式会社フジタ三枝祐輝氏（45期）、(株)アルコ櫻井かおり氏（41期）、ジョンソンコントロールズ(株)大澤昌志氏（42期））がパネラーとなり、建築学科教員の勝瀬義仁のコーディネータによりパネルディスカッションを行いました。パネラーの体験談に加えて、企業の求める人材などについてコメントを頂き、フロアーの学生との意見交換が行われました（写真）。



その後、会場を4階に移し、業種別に配置された50社の企業ブースごとに学生が訪ね、業種の内容や会社の説明を受けました。学生は概ね4～5の会社を回り、本格的な就職活動の出発点となりました（写真）。また、泉会関係者による相談会も並行して実施されました。

15時から、会場を食堂に移し、松下吉男建築学科長の挨拶を皮切りに懇談会を行いました。懇談会では、学生が積極的に企業の方にお話を聞く場面が多く見られ、大変有意義な懇談会となりました（写真）。このような就職セミナーに参加したいと申し出される企業が多く、また、次年度は企業の求人活動の開始時期が変わることもあり、企業の選定や時期について検討する必要があります。

結びに、現役学生の就職支援をしてくださった関係者の皆様方に深く感謝の意を表します。



◆平成25年度 在学生に対する支援活動

■第16回・泉会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会報告（協力：泉会、連合育成会）

第16回泉会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が、平成25年11月、新しくなったHグラウンドで行われた。結果は、優勝：田中研究室、準優勝：野澤研究室、3位：工藤研究室となった。賞状、1位から3位までのトロフィーに加え、賞金（優勝：1万円、準優勝：5千円、3位：3千円）を泉会より授与した。賞品、賞金は「泉会」の在学生支援費と「川越キャンパス連合育成会」からの学生活動支援費から賄われた。最近ではプレゼミ生も参加して、4年生と3年生が合同でチームを組むことができるので、他学年とのコミュニケーション形成にも効果が期待されている。



■1年生対象の茶話会（協力：泉会、連合育成会）

日 時：2013年7月24日(水)
15:00～16:30
会 場：第一会議室（4号館4階）
参加者：約60名（教員3名の他4年生、
院生も参加）
内 容：4グループによるグループディ
スカッション
建築学科関連施設の見学ツアー



事前のアンケートで期待する内容として、卒業までの段階的な学び方について、1年生でやるべきことは何か、上級生の体験談やアドバイス、建築の就職分野や就職活動について、資格に関するイベントなどが多かった。平成26年度はこれらのことを中心に上級生、卒業生及び資格関係者にも参加していただき、5月に学生食堂で実施する予定である。

■ 2年生対象の学生時代に取得可能な資格についての啓蒙活動（協力：日建学院）

7月8日(月) 12:10～12:30 2107教室 参加者数：43名
1名が宅建の試験を受験した。26年度は寄附講座での啓蒙を予定している。

■ 2年生対象の建設企業研究セミナー（協力：総合資格学院）

平成26年2月5日(水)12:00～13:10

会場：1301教室 参加者：60名

アンケート結果より、大部分の学生から受けてよかった、やる気が出た、目標が見いだせた、これまでの考えが変わったなどの意見があった。3年生以降の学習態度や就活への意気込みが期待される。平成26年度も同様のセミナーを実施する予定である。

■ 3年生、4年生対象の就職準備事前講座（2級建築士講座）（協力：総合資格学院）

平成25年9月～26年1月 16回実施 1回あたり150分

参加者：3年生46名、4年生12名 計57名

3年生にとっては就職試験の準備となり、4年生にとっては卒業後の2級建築士の準備となった。また、全員にとってこれまでに勉強した内容の復習にもなり、大学で学習したことの意義が改めて理解できた等の感想があった。泉会より講師料として108,000円を支援した。

平成26年度は、3年生に対しては25年度と同様の講座を開講し、4年生に対しては1級建築士も視野に入れた内容の講座を開講する予定である。

尚、卒業時に泉会の終身会費を納めた学生は、資格取得のための予備校への入会費が割引かれることがある。

◆平成25年度「泉会」総会・支部交流会を開催

平成25年度 東洋大学建築学科同窓会「泉会」総会・支部交流会が6月22日(土)に川越キャンパスで行われました。議事は平成24年度活動報告、決算報告に続き平成25年度活動計画(案)、予算(案)を決議いたしました。また、昨年は「泉会」創立30周年を迎えていて、10月に「創立30周年の集い」を計画していましたので、その計画に関する意見交換もおこなわれま



した。支部交流会におきましては、北海道支部（本間寿幸）、神奈川支部（河野洋）、静岡支部（鈴木行雄）、徳島支部（板原智）、東京支部（元持秀人）以上の方々の出席を頂き活発な意見交換が行われました。支部の方々におかれましては遠路ご出席を頂き感謝申し上げます。

◆退任・新任教員紹介

退任に当たって

三月末日をもちまして定年退職いたします。東洋大学に着任したのは、2005年の4月です。以降、在職中、泉会の皆様のご厚誼ご指導ご鞭撻に衷心より厚く御礼申し上げます。

半生を顧みれば、大学を卒業したのが1972年、電電公社に入社し、2005年春まで33年間、前半の16年間は主に設備設計に携わり、1989年頃から研究をスタートしました。NTTグループでの後半、17年間は劣化診断、保全計画などのコンサル業務の傍らこれに関連する研究を進めました。

東洋大学での9年間は、講義や卒論指導など慣れない仕事に初めは戸惑いもありましたが、研究室に在室する時間をできるだけ長く、という元サラリーマンらしい方針で乗り切りました。9年間授業の休講は一度もありませんでした。研究室に居る時間が長いということは学会など学外での活動が活発でなかったということであり、あまり自慢になりませんが、論文は、この間19本（内、筆頭10本）、それ以前と比べるとちょっとペースが落ちましたが、まあまあでした。

今後は、思い切りよく建築と縁を切り、吉永小百合さまの「大人になったらしたいこと」などをして、ゆるりと残日（昏るるに未だ遠し）を楽しみたいと思っています。

高草木 明



退任に当たって

平成11年に着任してから丁度15年間、東洋大学建築学科、泉会にはお世話になりました。川越キャンパスの第一印象は、空が広く、緑豊か、伸び伸びした空間が心地よいこと、そして院生室で鍋をやりながら教員と学生が隔てなく語り合う自由な雰囲気でした。今、実験棟の並びより南側に残る当時の建物は、両端の4号館、福利厚生棟、体育館のみ。寂しさも感じながら、その発展ぶりに驚きます。

もう一つ印象的だったのが泉会の活動ぶりでした。草創期の大先輩から若手まで連携もよく、機会あるごとに大学に足を運び、現役学生に接しながら、教育に、就職に等、様々な形の支援と励ましは、他にないものと思います。おかげで私自身も多くのOB/OGの方々と親しくお付き合いさせていただくことができました。

東洋大学在職中は、授業や校務の合間に、学校建築を中心に研究や各地の学校づくりに飛び回る日々でした。今後もしばらくは続け、特に東日本大震災の学校復興に関わっていきます。また「木と建築で創造する共生社会研究センター（WASS）」では、学校建築を切り口に木を使いやすい共生社会の構築を目指し、研究活動をしました。これはA-WASS（Action-oriented WASS）として木とエネルギーと学校をキーに自立的な地域づくりに係る実践的な活動を進めたいと思っています。

これまでのご厚意に感謝しますと共に、泉会の変わらぬご発展を祈念しております。

長澤 悟



退任に当たって

昭和41年4月に東洋大学工学部建築学科安岡研究室の助手として採用され、以後川越キャンパスに48年間に亘り務めてまいりました。そこでは多くの先生方、多くの卒論生・修論生に囲まれて過ごした時間が走馬灯のごとく思い出されます。

就任当初から最後まで音環境に関する実験と研究を行う事が出来たのも安岡正人先生の暖かい導きがあったからと偏に感謝しております。

思い起こせば、研究にも社会の移り変わりと共に推移しているようでした。高速道路や道路騒音のための材料研究実測に始まり、航空機騒音対策のために北は北海道から中部地方まで数年間基地騒音を測り資料作りの対応に追われました。その後、日本の高度経済成長期には市町

講師 藤井 弘義



村で競った市民会館等の室内音響計画や個人のスタジオ・リスニングルームの音響計画と工事、一段落すると核家族化に伴い個人住宅や集合住宅の音問題がクローズアップされ床衝撃音・壁の遮断、そして現在日本でも唯一銅板屋根の雨音騒音の実測ができる装置の開発が出来多くの研究実験を行いその対策に対応の機会となりました。また、最近10年は、日本の幼稚園・保育所の室内の快適音環境を得るためにスウェーデン・カナダ・オーストリア・台湾・中国・ミャンマーでの調査を基に研究を行ってきました。更に、学校教室のオープン化に伴う隣室間の音遮断計画にも関わってきました。このような様々な研究や調査を長年行ってこられたのも学校の教職員・卒業生の皆様の支援と協力があったと偏に感謝をしております。

今後、泉会の会員数は増えていきますが、仲間同士助け合って発展されますよう祈念いたします。

新任のご挨拶

准教授 岡本 和彦

3月まで東京大学工学部建築学科の助教を務め、4月に着任いたしました。担当は建築計画で、特に医療施設を専門としています。学部から博士課程まで東大のいわゆる純粋培養ですが、博士課程修了後は岡田新一設計事務所に勤務し、医療施設設計室長として数万平米単位の病院設計に携わってきました。

2003年に恩師である長澤泰先生の助手として東大に戻り、学部と大学院の設計・論文指導を続けて参りましたが、2008年に鹿島学術振興財団の研究者交流援助長期派遣助成を受け、1年半休職してテキサスA&M大学で米国の医療施設設計と教育について学びました。日本では知名度が低いですが、医療福祉施設を専門に扱う研究センターを持つ、世界でも数少ない大学です。

テキサスは車がないと「生きていけない」(冗談ではなく文字通りです)ほど広いのでなかなか行く機会がありませんが、三大都市のダラス・ヒューストン・サンアントニオには巨匠(特にフィリップ・ジョンソン)の名作が多く、大学が三角形の中心にあったこともありよく見に行きました。また、バスケットを見るのが好きなのですが、好都合なことに三大都市すべてにNBAチームがあり、しょっちゅう見に行っていました。ちなみに大学からダラスは東京新潟間に相当しますが、車で日帰りしていました。

医療建築の研究もさることながら、日本とは大きく異なる街や建築のスケールを体験したことは大きな収穫でした。それに対して、最近の学生が都内の建築さえあまり見ていないことを少し心配しています。学生に足を運ばせるような、興味をひかせる授業を目指します。今後ともよろしく願いいたします。



新任のご挨拶

准教授 イム ウンス

建築環境・設備工学を担当するイム ウンスと申します。出身は韓国のソウルで、出身大学は大阪大学工学部で建築を学び、引き続き大阪大学大学院で博士前期課程、博士後期課程、特任研究員1年の経験まで約10年間を大阪で過ごしました。大阪大学大学院では、指導教員だった山中俊夫先生の下で、室内温度・気流分布予測に基づく風力換気併用ハイブリッド空調システムの換気計画法に関する研究に取り組んでいました。大阪大学の環境設備Gr.では、相良和伸先生、甲谷寿史先生とも共同研究を行ってまいりました。九州大学では、総合理工学研究院林徹夫研究室で特任助教として3年間勤めており、共同研究者の准教授伊藤一秀先生と居住者の快適性や健康に影響する室内不均一環境の予測・評価に着目した研究に取り組んでいました。研究キーワードとしては、空気環境、熱環境に関する研究を、「自然換気」、「換気効率」、「省エネルギー性」、「日射遮蔽技術」、「空気質評価」、「汚染物質輸送」をキーワードとして、実験的手法や数値解析手法を用いて、物理現象の解明と予測を行っております。

川越キャンパスを初めて訪ねたときは、雨の日で「こもればの道」がとても印象深く、市内を移動したときの疲れから癒やされる気がしました。これから、季節の移り変わりで変化する「こもればの道」を歩きながら、学生の教育・研究について考える生活を楽しみにしています。OBの皆様と共に、東洋大学理工学部建築学科の発展に一助できる様務めたいと思っております。どうぞ宜しく御願い致します。



◆平成26年度 年間活動計画（案）

月	理工学部（建築学科）「泉会」関連行事	泉会行事、会場、業務活動等
4	新入生オリエンテーション4/1～5、 3年進級ガイダンス：10:00～521教室 4年進級ガイダンス：10:30～522教室 1年生オリエンテーション：13:00～2201教室 入学式：4/6 授業開始：4/7 「泉会」寄附講座開始：水曜日15回（4月～7月）	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション会長祝辞（4/3） 14:00～2201教室 ◇拡大三役会 4/3（木） 於：川越校舎（スケジュール・会報関係） 準会員費集金及び記念品（三角スケール）贈呈（役員・学内幹事） 3、4年進級ガイダンスにて2級建築士模擬試験実施 ●「泉会」寄附講座開始 ・会報編集委員会 未定 ・平成26年度活動計画 他 ・連合育成会役員選出（代議員5名、各種常任委員5名、選管委員1名）
5		<ul style="list-style-type: none"> *4年生終身会費納入のお願い（各研究室、ゼミ長会議等） ・幹事会案内状メールでの発信 ・1年生対象の茶話会日程：未定（学科及び泉会主催） 場所：食堂 ○幹事会 日程、場所未定
6	学祖祭 6/6	<ul style="list-style-type: none"> ・川越キャンパス連合育成会代議員会：6月7日（土） ○「泉会」総会・支部交流会 6/21（土）13:00～ 川越キャンパス 連合育成会大会、イベント（内容は未定） 幹事期同期会9、19、29、39期、連合育成会合同交流会 ・神奈川支部総会
7		<ul style="list-style-type: none"> ・建築学科まちかど講評会：優秀者表彰（準会員支援） ・新入生歓迎第1回建築パーティー（準会員支援）
8	夏休み 8/11～9/20	・徳島支部総会
9	9月卒業式・学位記授与式：9/20（土） 秋学期授業開始 9/22（月）	<ul style="list-style-type: none"> *会報編集委員会発足 ◆「泉会」建築学科合同懇親会：未定
10	研究室対抗ソフトボール大会	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回「泉会杯」争奪研究室対抗ソフトボール大会（準会員支援） ◇三役会：未定
11	こもれび祭 11/3、4	・連合育成会イベントへの参加
12	冬休み 12/24～1/3	<ul style="list-style-type: none"> ◇三役会：未定 建設業界説明会（総合資格学院と連携） ・OBによる就職ガイダンス：未定（3月に変更可） ・第2回建築パーティー（準会員支援）：未定
1	授業再開 1/6	平成27年度寄附講座講師選考
2	春休み 2/9～3/31	<ul style="list-style-type: none"> ◇三役会議：未定 ・卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考（準会員支援）
3	卒業式・学位記授与式：3/23	<ul style="list-style-type: none"> *会報編集委員会：未定 ・3/23 卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与（準会員支援） 準会員終身会費集金作業

■主な事業活動項目と担当者

事業活動項目	担当者		
	担当三役員	学内幹事	連合育成会
泉会賞選考・授与、卒業生・新入生祝辞	中山 秀明	全員	
新入生オリエンテーション	全員	全員	
就職ガイダン+懇親会	全員	全員	
幹事会	全員	木元 洋佑	
定期総会・支部交流・懇親会	須貝 重義	勝瀬 義仁、奥津 孝雄	事務員
広報・企画（会報『泉会』等）	寺山 誠、伊藤 麻理	全員	
財務	木元 洋佑	松下 吉男	事務員
HP維持管理	長谷部 勉	松下 吉男	
名簿の更新	松下 吉男	全員	事務員
寄附講座	中山 秀明	（日色教授）	

寄附講座

産学協同実習 I 平成26年度 泉会寄附講座

水曜日13:10-14:40 2201教室

	月 日	ジャンル	テーマ	概 要	担 当 者
1	4月9日	建築学科 泉会	ガイダンス	産学協同実習 I、どんな講義「概要説明」	建築学科教授 日色真帆 泉会会長 中山秀明(12期)
2	4月16日	まちづくり	住宅地計画	首都圏における明治から現在までの民間住宅地開発の歴史の変遷	街並工学研究所 上川勇治 (3期)
3	4月23日	不動産	時代ニーズに対応した「ブランド戦略」	建築と密接な関係にある「不動産業(デベロッパー)」の基礎知識と、経済社会動向での問題提起を噛み合わせた、プロの街づくり事例を紹介する。	(株)アルコ 鹿倉三裕 (41期)
4	5月7日	世界への挑戦	世界を視野に入れた設計活動	名作品に影響を受けて。ドローイング一つで未来を切り開く。処女作は欧州デビューを経て、世界を視野に入れた設計活動の展開の必要性について。	(株)慎都市建築研究所 佐山憲秀 (13期)
5	5月14日	住宅建築	暮らしを豊かにするトータルデザイン	分譲住宅と注文住宅の紹介。注文住宅の入居までのながれの紹介とエピソード。ローンや保険など人生のトータルコーディネート必要性。お客様に対して大切なことなど。	ポラス(株) 尾崎栄之
6	5月21日	建物管理	施設マネジメントの仕組み	施設のソフト管理(テナント誘致、管理契約)、ハード管理(設備保守管理、法定検査)の仕組みと、ストックビジネス等について実践を交えた講義を行う。	(株)タック 小堀晶人 (25期)
7	5月28日	資格について	まずは、宅建。	学生の今だから出来ること。「近い将来」と「遠い未来」を考え「今」行動に出る。人気の宅建を例に、その試験内容・実践方法・有効活用について。	日建学院 前島宏哉 (43期)
8	6月4日	省エネルギー開発	建築設備の省エネ	1) 省エネが必要とされる背景 2) 省エネに対する国内の動向(H25 改正省エネ法、ビル管法など) 3) 設備の省エネ手法(設計時、運用時、改修・更新時の手法)	国際省エネルギー計画研究所 福田久光 (3期)
9	6月11日	建築施工管理	生産設計図と現場施工管理の要点	1) 設計図と生産設計図の違いを知る。 2) 生産設計図を基にした現場施工管理の重要性。 3) 現場の“やりがい”って?	(株)大林組 西田賢之 (23期)
10	6月18日	内装インテリア	物販店舗における内装デザイン手法	食品スーパーやドラッグストア、雑貨、アパレル等の小売業界における店舗デザイン手法を、店舗に関わる買物客、従業員の目線や時流を交え講義する。	(株)オカムラ 山本克樹 (30期)
11	6月25日	意匠デザイン	アトリエ設計事務所における設計業務	担当したプロジェクトをベースに作品紹介と設計の進め方など。	香山壽夫建築研究所 伊代田卓身 (40期)
12	7月2日	屋上緑化	ドイツの屋上緑化・日本の屋上緑化	屋上緑化の先進国ドイツの考え方、取り組み方と、気候風土が異なる日本の緑化の考え方、取り組み方を建築の視点から考える。	田島ルーフィング(株) 後藤良昭 (4期)
13	7月9日	音響設計・音の種類	防音設計の基本	音を出して、周波数に対する説明や、防音工事を行う場合の遮音の基本など。また、建物を設計するうえで音に対する配慮や検討等に関してなど。音の観点から見たゾーニングなど。	若林音響(株) 高橋 剛 (27期)
14	7月16日	都市再開発	渋谷再開発計画	都市再生と都市再開発について	東急建設(株) 清水昌博 (9期)
15	7月23日	まちづくり政策	大学との連携	東洋大学と連携したまちづくり 防災(耐震改修促進計画)から鶴ヶ島プロジェクト(公共施設利用計画)まで	鶴ヶ島市役所 島田光弘 (17期)

支部だより

静岡支部 懇親会を開催しました

7期 前田研卒業 鈴木 行雄

財団系指定確認検査機関に就いて早4年が過ぎようとしています。この間、確認検査担当の役員として幾多の危機にも遭遇し、行政機関と民間の立場の違いや、不合理な法律の運用等々数多く経験させられました。特に、地方分権の推進に伴い行政庁の数が増え、建築基準法の運用や関係法令の取扱い等において設計者や指定確認検査機関にとって、益々業務の煩雑性が高まっているのではないかと考えています。そうしたことから、かなわぬ夢とも思いつつ、今では行政機関に対し多くの提案や要望をお願いしている今日です。

さて、泉会の静岡県支部『静泉会』については長らく休眠状態にありましたが、昨年11月1日、久しぶりに有志による懇親会を開催しました。参加者は12名で県中部地域の皆さんが中心でしたが、中には初めて『静泉会』に参加された方もいらっしゃいました。

当日の話題は「和泉会創設40周年記念の会」の報告や会員の県内大手設計事務所社長就任のお祝い、近況報告、今後の業務協力、会の運営方針等一次会では物足りず、久しぶりに二次会まで盛り上がりました。

また、今後の会の運営では、世代交代の促進、地域校友会との連携等かねてからの話題が中心で、『静泉会』は建築学科卒の地域会として頻繁に会を開催する。また、校友会は地域におけるオール東洋としての連帯を図る会として共にできる限り参加するなど意見はまとまりました。私も、25年度から校友会の県中部ブロック幹事を任せられ、否応なしに会に出席し、校友としての親交を深めております。

そうした意味で、本年正月の箱根駅伝には感動しました。山の神が卒業しても設楽兄弟をはじめとした後輩たちは見事に成果を出してくれました。胸のすく思いがいたしました。本当におめでとうございます。



徳島支部 「阿波踊り東洋大学連」が結成25周年

19期 板原 智

徳島支部では、支部活動として毎年お盆期間中に徳島市内で開催される「阿波おどり」に参加しています。毎年総勢80人前後で「連」を成し、二日間にわたって徳島の街に踊り込んでいます。

また、ご支援ご協力をいただいている方々のおかげで、「阿波踊り東洋大学連」は、本年度で結成25周年を迎えることができました。継続は力なりと申しますが、このように長年に亘って続けてこられたのは、大学・学生・OB・保護者・後援会等の強い結束があってこそであると自負しております。関係者一同、これからも出来るだけ永く続けていこうと思っておりますので、他支部の皆さんもどうぞお気軽にご参加下さい。心よりお待ちしております。やみつきになること間違い無しです。

毎年多くの方々が参加されており、本年度大学からは、神田雄一副学長、香取慶一建築学科教員や、徳島県出身で「阿波踊り東洋大学連」連長でもある勝瀬義仁建築学科教員とゼミの学生10名らが参加されました。

「東洋大学連」の躍進はめざましく、県外大学連として初の優先連（優先的に有料演舞場で踊ることができる）になっています。白山キャンパス内サークル「阿波踊り愛好会」の学生を中心とした若くはつらつとした踊りはまさに圧巻です。一見あれです。

尚、校友会徳島県支部のホームページにて「阿波踊り東洋大学連」関連の情報も発信しておりますので、一度ご覧下さい。（ホームページアドレスは下記のとおり）

http://geocities.yahoo.co.jp/gl/toyo_toku_07



神奈川支部 “神泉会”を活用しましょう。連絡を！

3期 河野 洋

第90回箱根駅伝総合優勝おめでとうございます。

神奈川支部は、校友会、甬水会、甬水OB会共催で、2日（往路）は湯本箱根ホテルで、3日（復路）は、横浜崎陽軒で応援新年会を行いました。神奈川の中心行事です。

「神泉会」は、設立から、19年目。ヨコハマタウンウォッチング開催から8回目。“ヨコハマウォッチング”が、神泉会の継続的な行事です。

『第7回 ヨコハマタウンウォッチング』「掃部山コース」は、平成25年9月28日（土）に開催しました。横浜開港時の「横浜道」を通り、岩亀稲荷、掃部山、横浜能楽堂、音楽堂・図書館など桜木町までの約2時間30分の散策をしました。

参加者／19名（うち神泉会9名）



平成26年度の『歴史の街 ヨコハマタウンウォッチング』第八回「金沢八景の道」

平成26年9月27日（土）に開催予定です。

毎年、9月最終土曜日で、雨天の場合、10月の第1週の土曜日です。

各行事の連絡を事務局よりしますので、下記まで連絡先をお知らせ下さい。

連絡先 河野 洋（3期） メール：hiro-ka@w4.dion.ne.jp

泉会支部活動を活発に！

建築学科学科長 松下 吉男（7期）

皆様ご承知の通り、泉会の活動の一環として支部活動があります。支部としては北海道（北の泉会）、新潟（新泉会）、茨城（いばらき泉会）、群馬、神奈川（神泉会）、静岡（静泉会）、徳島、岡山、福岡および山梨の10支部がありそれぞれ交流が行われております。現在、東京支部結成に向けての動きもあることを聞いております。

支部は各県ごとに建築学科卒業生や在校生との交流を計り親睦を深める活動です。徳島支部や神奈川支部は大学の校友会とも連携して活発な活動を展開しており、北海道支部や静岡支部を含めて毎年6月に行われる泉会の支部交流会にも参加され活動報告をして頂いています（支部だより参照）。今年の泉会総会及び支部交流会は6月21日（土）に開催されます。是非川越キャンパスにお越しください。1名分の交通費を支援させて頂いております。

最終ページの役員組織図（第16期）に各支部の支部長および事務局の連絡先が掲載されておりますので、連絡を取り合って活発な活動を展開されることを望みます。支部の活動に際しましては、活動計画、予算および活動報告、決算資料を送っていただき、三役会にて認められた場合、最大5万円の活動費を本部より支援させて頂いております。懇親会等の飲食費の支援はできませんのでご承知おきください。

今後支部を設立される県がございましたら、本部から応援に参りたいと思いますのでご連絡ください。泉会の活動がますます活発になり、多くの卒業生の親睦と東洋大学建築学科の在校生の支援活動を展開してまいりたいと思いますのでよろしくお願いたします。

◆地域に開くものづくり精神の継承拠点—サイエンスヒルズこまつ

サイエンスヒルズこまつをコンペで取りました。「ものづくり精神を継承」し「こどもたちの科学への興味」を育み、北陸新幹線開通に伴い訪れる大交流時代へとつなぐ南加賀最大の交流拠点としての役割が求められました。遠くに白山連峰を臨み比較的低い建物で形成される周辺環境の中で、雄大な自然（nature）との繋がるランドスケープと、地域と世界が自然体（natural）で交流できる動線設計や機能にあった形を創るプロジェクトでした。

建物は、日本海側で初の3Dドームシアター・科学体験学習施設・地域産業振興施設・インキュベート施設となり、それぞれは地面から起伏する4つのウエーブと称する鉄筋コンクリートの曲面体により構成されています。全てのウエーブは断熱性能を高める為に人々が歩行できる屋上緑化が施され、その下に内部空間を有しています。人々は四方に開かれた入り口から訪れ、自然の丘を楽しむようにいろいろな場所をめぐり、その中で各所に配置された施設で行われるアクティビティーを遠目にとらえながら自然に交流を生みだします。全ての市民が楽しめる公共公園でもあり、科学振興というプライベートな公共施設でもある



という二面性を実現しました。地域が世界に開かれていく場所として、長く愛されることを希望しています。

公共事業が不調な時代に、このような思い切った建築を完成できた事は非常に幸運でした。そして、この経験によってUAOとしての設計スタイルも少し固まりつつあるように感じられます。沢山のサポートによって実現できたこの実績を糧に今後ともがんばってまいります。

UAO 代表 伊藤麻理 (32期)

◆SD Review 2013 入選

本誌10ページに掲載されている「鶴ヶ島・未来との対話プロジェクト2013」が昨年9月のSDレビューに入選しました。以下は設計コンセプトです。

本計画の設計の過程で「駅舎」と「教会」と「路地」がモチーフとして浮かび上がって来ました。敷地内には、コミュニティバスの停留所が設置される予定があり、管理施設であるからゲートの役割も必要でした。バス停前広場とゲートのあり方は「駅舎」のようでした。都市型大規模太陽光発電施設という珍しい施設を核にして地域活動の拠点をつくり、子どもたちの環境学習や防災に役立terという建築の趣旨から記念碑性が求められ、単なる学校というよりは原初的な「教会」がイメージされました。そして地域のお年寄りが散歩の途中に立ち寄り、ベンチに腰掛け、会話を楽しむイメージは「路地」の空間を想起させました。

「駅舎」も「教会」も「路地」も、敷地の周辺にはないものです。また、その場で要求された機能をただかたちにしたのものでもありません。若さを失いつつある郊外都

市の一角で、そこにある現実に応えつつ、その現実から少し自由になるような建築の詩として投影されたものです。ここではそうした複数の詩をひとつに重ね、新しい地域の共同性をかたちにしようと試みました。

本計画は2014年3月に竣工し、現在多くみなさまに利用していただいております。ぜひ泉会の皆様にも見学いただけると幸いです。

施設案内ホームページ

<http://www.yomeishu.co.jp/solar/index.html>



◆心身の骨格を鍛えて欲しい—コミュニティセンター棟

工事名称：東洋大学川越キャンパスコミュニティセンター棟増築工事

工事期間：平成25年8月22日～平成26年2月11日

設計・施工担当：株式会社島村工業

この建物は東洋大学川越キャンパス内に、コミュニティセンター棟と称し、学生のサークル活動の拠点となるものであります。

地上3階建てで、1階には音楽系サークル活動の為の音楽室・多目的室・工作室・競技ダンスの練習室・ウェイトトレーニング室等の大部屋と、管理及び共用関係諸室（更衣室・シャワー室・トイレ・警備室）があります。2、3階には、各サークル室（面積18㎡）が、おのおの20室と本部室、会議室及び倉庫があります。

設計を進める上で考慮した事は、「いかにしたら建物内で、学生同士がコミュニケーションを最大限計れるか」と言う事でした。

そこで、建物内にコミュニケーションが計れる広場的なものを取り入れようと考えました。1階は、広場的な機能を持つ中庭とし、その中庭

を中心に、コの字形に建物を配置しました。この中庭は、外部空間なので

が、歩行者しか利用出来ない為、安全であり、かつ、閉じられているので落ち着いた空間として利用出来ると思います。2、3階はその中庭に面して、外部廊下を設けました。1階の中庭にいる学生と会話等が出来ます。こうして吹抜けた中庭（広場）では、必然的にコミュニケーションが計れ、名実ともにコミュニティセンター棟となるものと思われれます。外観に関しては、コンクリート打ち放し仕上げとしています。躯体(人間で言えば骨格)をそのまま表現しているのですが、学生がサークル活動を通して1人前の人間としての骨格を造り上げる場所である事を表現したものです。人間としての心身の骨格を力強く鍛えて欲しいとの願いが込められています。

株式会社島村工業 寺山 誠 (13期)



●建物概要

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 所在地：埼玉県川越市鯨井字中野台2100番 | 4 構造：鉄筋コンクリート造 |
| 2 用途：学生部室 | 5 建築面積：872.91㎡ |
| 3 階数：地上3階建 | 6 延床面積：1827.60㎡ |

◆新しい街並みをより豊かに—地域に根ざした店舗とオフィス

HOSHINO Bldg

スタジオ4 設計 細谷 功 (11期)
生田 竜三 (47期)

この建物の用途は地域に根ざした不動産会社の店舗とオフィスである。設計を進めるうえで、街並みに対して開かれた透明感のあるファサードを目指した。1階は物件案内・接客スペースとオフィス。2階は会議室と社長執務室。そして3階は通常は会議室などとして使用されるが、時には地域の方々に開放できるようなホールのスペースにもなっている。特に2階に要求されたボリュームが小さいため、余った部分は内部から連続した外部のバルコニーとし、2階においても街並みにも開いた表情を持たせた。こうしてできた、各階のボリュームのズレを建物のデザインコンセプトとして進めることにした。複雑にずれた各階の平面を、構造設計家の梅沢良三氏は100角柱と114Φの円柱によるアンカープレート工法で実現してくれたのである。とかく、小規模な商業ビルやオフィスビルは均一なデザインになりがちであるが、構造的な工夫と、デザイン的な配慮により、変化にとんだ豊かな表情の建築が可能となる。

そのような建築により、新しい街並みがより豊かにな



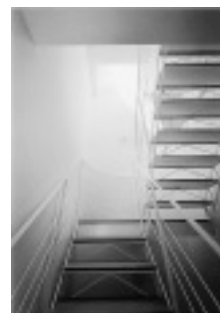
っていくことを願っている。

株式会社鋼構造出版

『鉄構技術2014年2月号』掲載

●建築データ

- | | |
|--------------|--------------|
| 所在地：埼玉県富士見市 | |
| 主要用途：事務所 | |
| 竣工時期：2013年8月 | |
| 階数：3階建 | 構造：鉄骨造 |
| 敷地面積：143㎡ | 建築面積：108.23㎡ |
| 延床面積：259.49㎡ | |



同窓生だより

『街並みの形成』を出版して

昨年（平成25年）夏住宅新報社より表題の本を出版した。内容は、首都圏における民間住宅地開発の歴史の変遷を明治から現在までを時系列的に紹介したものである。その数は約80地区となった。当著は、一般社団法人東京都建築事務所協会月刊機関誌「コア東京」に平成19年5月号から平成24年11月号まで51回連載したものをベースとして修正、加筆してまとめたものである。戦前までの事例は既に何冊かの名著でまとめられているが、戦後編は無い。特に昭和20年、30年代のものは全く埋もれており探し出すのに極めて苦労した。この時期はまだデベロッパーは殆ど無く大手民営鉄道8社による開発が殆どであった。運よく友人が(社)都市開発協会（現在は無い）の資料を貸してくれその中の会社別資料が大いに役に立ち何とかまとめられた。40年代以降はこの資料と所有していた自前の資料が大いに役に立った。これは、卒

3期 上川 勇治

業後造園の田畑先生の事務所設立に伴い初の所員となり、市浦都市開発に移り、独立し主に民間住宅地開発のプランニングを手がけ、その間に集めたもので、1万枚の現地写真とともに役に立った。今年古稀を迎える良き記念となるものが出来たと思っている。同窓の士で既に買っていただいた方にお礼を申し上げます。まだ認識されていない方は是非ご高覧していただければと思います。



五期生同期会(昭和45年卒)開催しました

5期 元持 秀人

平成24年12月17日に有志4人が集まり、翌年の4月頃同期会を開こうではないかと相談しました。会場は居酒屋ではなく東京で心に残る場所で交通の便が良い所にしたいので、東京タワーの下港区芝にある「うかい亭」に決め、時期は平成25年4月13日(土)と決めました。有志の協力のもと、1月に案内状を発送し、また電話でもお誘いした結果23名の参加表明がありました。

当日は、風雨も収まり、若葉が春の陽に眩しく舞い穏やかな一日となりました。最初に「今回の案内状の結果、住所判明者82名・住所不明者22名・物故者12名」の報告をし、開会の挨拶後、乾杯のおんどで始まりました。各自の自己紹介では昔の話や現在の状態等に話が咲き、あっちこっちで勝手に話が始まり、もどすのに苦労しました。そのあとは席を替えたり、話題を変えたり、中には菓（パイ・・ラ）の話も出るしまつでおおいに盛り上が

りました。最後に東京タワーをバックに記念写真を撮り解散となりました。

今回は様変わりしたく白山>を見てもらいたく白山でおこないます。恩師の招待、学内散歩、特別企画、等考えますので、今回は多数の参加者をお待ちしています。



松下教授と耐震パネルの共同研究

17期 星野 真志

私が勤めている東京パワーテクノロジー株式会社では、電力関係施設の設計・設備維持業務を行っています。また、平成21年度より、松下教授と共同で、伝統的木造建物用の耐震パネルを研究・開発してきました。

伝統的木造建築のうち、神社建物については、壁等の耐震要素を設置する場所が少なく、耐震補強が進んでいませんでした。このため建具の裏にステンレス製の耐震パネルを設置し、外観が変わることなく耐震補強が行える工法を開発しました。ステンレスパネルは、約1mmの薄板を使用し、変形をすることで地震エネルギーを吸収します。強度算出には、半張力場理論を考慮したため、加藤勉東京大学名誉教授（元東洋大学教授）のご指導も

仰ぎました。

平成22年度くらいから、学校建築の耐震化が遅れていると問題となりましたが、特に耐震化が遅れているバルコニー付建物の耐震補強に、伝統的木造建物用の耐震パネルが利用できるのではないかと考え、平成24年度から、鉄筋コンクリート用に改造する共同研究を行ってまいりました。



鉄筋コンクリート用耐震パネルは、外観を損なわずに補強工事ができることに加え、ステンレス材を使用したパネル構造のため、地震時に粘りのある性能を発揮し、短い工期でいながら補強工事を行え、学校、ホテル、病院、寮などの建物に利用が可能です。

共同研究は、東洋大学の施設で、実験を行いました。

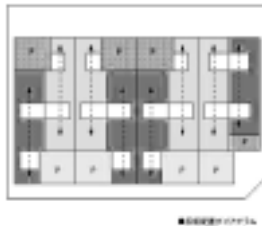
卒論生との実験は、自分の学生時代を思い起こさせ、新鮮な体験でした。

今後は、いろいろな形状の耐震パネルの強度確認等を松下教授と行っていく予定です。開発した耐震パネルについて、ご興味のある方は、遠慮なくお問い合わせください。

中庭のある八軒長屋 反転配置により敷地間口を最大限に利用

山梨県の昭和町にて、広い敷地を活かした地方都市ならではの賃貸住宅のあり方を模索した計画です。一般的な積層タイプの構成ではなく、全住戸とも接地階となる並列長屋の構成にて、戸建と同様の居住性を追求することをテーマとしました。

屋根付き駐車場と二つの中庭のあるプランを基本に、2LDKの平屋と一部二階のある3LDKの、二タイプの8軒の長屋です。敷地の間口を最大限に利用しつつ、全住戸二台分の駐車場を確保するために、左右反転プランの2戸を一組として上下反転させ全体を構成しました。そのため、4軒は北側からのアプローチ、残りの4軒の内3軒は南側からのアプローチとなり、同様の構成でありつつも空間、間取りのパターンは複数になっています。



全住戸とも家の中心にある大きな中庭と、家事などに利用するユーティリティの機能を持つ中庭の2つの中庭を設けました。この2つの

中庭の間にリビングダイニングを配置し、2つの中庭の外側に個室を設ける事で、内→外→内→外→内と連続する奥行きのある空間をつくっています。また、この中庭に居室を面する事でプライバシーを確保しつつ通風や採光などを確保しています。

リビングスペースは天井高さ3m、一般居室は2.7mと大きくとり、かつ床の段差を少なくするなど、将来的なプログラムの変更（老人施設などへの変更を視野に入れている）や更新にも対応する可変性を兼ね備えている計画でもあります。

甲府盆地の山並みや周辺の町並みに同調しながら、平面的に広がる「庭付き一戸建て」共同住宅の提案です。

31期 奥野 公章
(奥野公章建築設計室)



ものづくりという仕事

はじめましての皆様、はじめまして。お会いしたことのある皆様、こんにちは。45期卒業の若山範一と申します。所属する株式会社 ludogramでは建築設計や様々なデザイン業務に携わらせて頂いております。

早いもので修士課程卒業後2年が経ち、卒業後は右も左もわからない中「がむしゃら」という言葉が似合う生活を送って参りました。日々、尊敬できる先輩方に囲まれながら勉強中です。

まだ、設計業務では諸先輩方に比べたら経験不足な私ですが近況報告をさせていただきます。

担当しているプロジェクトのひとつで茨城県大洗町に海を眺める住居が完成します。5階建ての建物が斜面に沿って配置されており、扉を開くとすべての部屋が正面の大きな海に繋がります。4月中旬に完成予定ですので会社のHP等でご紹介させて頂ければと思っています。

その他、多くのプロジェクトで小さなものづくりのレベルから大きい建築物まで、実際に手を動かしながら設

計に携わらせて頂いております。ものづくりの意識が高い会社で働くことは大変楽しく、充実した日々です。

ものづくりをする為には多くの方々にご理解とご協力をして頂いております。日頃から思うことは、プロジェクトを進行するにあたって多くの人々に支えられていることを忘れないことです。とても当たり前のことですが、これからはものづくりに携わっていくにあたって忘れてはいけないことだと思います。会社の先輩方やお施主様、現場の職人の方、メーカーの担当者、後輩の学生のみんな、友人、家族など。初心を忘れずに日々精進いたします。



45期 若山 範一

多くの皆様に支えられて

東洋大学院理工学研究科

博士前期課程 松野研究室 高岩 裕也

学部生活最後に、卒業設計賞銀賞、卒業論文最優秀賞を頂きました。双方の研究を執筆、提出できたことは、多くの方々のご指導があったからに他なりません。日々お忙しい中でも、松野浩一教授には格別なる御指導と御高配を賜りました。先生には学部1年後期の研究室に御呼び頂いた頃から現在まで、多くのプロジェクト担当を通じて思考や哲学の御指導を賜りました。先生から頂いた「建築に携わるものであれば、哲学を持たなければいけない」という言葉があります。この言葉は私が大学で学んだ中で最も価値のあるものです。研究の内容だけでなく、各先生方には大学生生活においても様々なご助言を頂きました。



また、アルバイトでお世話になっている江尻建築構造設計事務所では江尻憲泰先生、所員さん方に、数々のプロジェクトに参加させて頂き、大変勉強になりました。卒業設計制作では、建築家の中山章先生に大変お世話になりました。お忙しい中でも何度もご指導を頂きました。母校の先生、同期にも、卒業後も建築分野や様々な面でお世話になり、刺激を受けました。皆様のお陰で今の自分がいます。

研究室の同期生とは共に建築学を研鑽し、有意義な学部生活を送ることができました。設計は他大含め、計13名がお手伝いに来てくれました。多くの皆様に支えられて研究を行うことができました。僕の行った研究成果が皆様の御期待に沿うものかどうか疑問は残りますが、何より人の繋がりの大切さを学ぶことができました。

最後に、私の学部生活を暖かく見守り、応援してくれた家族・親戚、そして建築という分野を学ぶきっかけを与えて下さった大工の祖父に最大の感謝を申し上げます。大学院ではより建築学を研鑽していきたいと思えます。

基盤づくりの楽しみ

建築学科3年 妻木 夏輝

これまでの3年間、建築について多くのことを学びました。1年生の頃から専門的な授業があり、今まで触れたことのない世界に戸惑うこともありました。しかしこうして振り返ると、一つひとつすべてが大切なことであり、社会に出るための基盤になっているのだとわかりました。3年の秋から配属された松下研究室での活動も4年生から卒業論文に向かっていきます。ここでの研究もまた難しく、多くの苦労があると思いますが、自分の基盤づくりだと思いと楽しみで仕方ありません。今年から泉会により行われた2級建築士講座では今までの授業の復習や、これから資格を取得するためのきっかけを得ることができました。また、現在行っている就職活動での入社試験と範囲が重なるため、ここで得た知識は大変ためになりました。

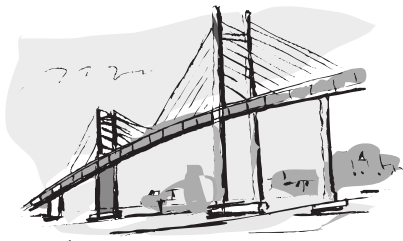


学生生活で知識を得たのはもちろんですが、人とのつながりの大切さも学ぶことができました。建築が好きという共通点を持った仲間と勉強し、共に課題を乗り越えていく日々はとても楽しく、刺激的でした。また、泉会という先輩方とのつながりは社会に出るにあたって大きな道しるべとなります。このつながりは学生にとっては非常に大切なものだと感じました。私も将来は研究室とのつながりを持ち続け、後輩たちの道しるべになりたいと考えています。

2年間を振り返って

建築学科3年 藤田 悠佑

大学に入学して、もう2年が経ちました。自分はこの2年間で学ぶことの楽しさを知ったような気がします。以前までの自分は学ぶことに対して消極的な学生でした。しかし大学生になって、以前から興味があった建築を学べるようになったことをきっかけに、少しずつ変わっているなど実感しています。建築という分野はとても奥が深く、入学当時はわからないことだらけで戸惑っていました。正直、以前の自分ならどうせ理解できないだろうと決めつけ、逃げていたと思います。しかし、建築に関する事にはどんなことに対しても興味が止まりませんでした。あれが知りたい、そのためにはあれも知らなければいけない。そんなことを繰り返しながら、この2年間駆け抜けてきたような気がします。この2年間を振り返ると、読書やオープンデスク、一人旅など、以前の自分では考えられないようなことをたくさんやってきました。



初めはよくやってこられたなど不思議に感じていましたが、それは学ぶことの楽しさを知ったからだと感じています。以前の自分にはわからなかったことが、読書や身体体験を通してわかるようになっていく。それがたまたま楽しく。これからは将来の自分のイメージを少しずつ確立させながら、建築を学んでいけたらと思います。

建築を学び始めて

新2年 恩田 早也加

私が建築を学ぼうと思ったきっかけは、中学生の頃に自分の部屋がはじめてできて好きにリフォームをさせてもらったことがきっかけでした。インテリア雑誌を読んでいるうちに、家具や建築に興味を持ちました。大学へ入り建築が学べることの嬉しさと同時に建築って難しいと思いました。きっとこのまま大学で受身で勉強をしていたら4年間なんとなく過ごして終わってしまうと思いました。なのでこの1年間企画や展覧会、講演会などいろいろなところへ足を運んだり、携わらせてもらいました。その中でたくさん学べたことがあります。そこでいろいろな人と出会いました。建築は人との繋がりも大切だと実感しました。講演会などは聞いてても難しい話ばかりで理解できないことが多いけれど、メモをして今後のためと思っています。先日、せんだいデザインリーグで全国の卒業設計を見に来ました。思ったこと感じたこといっぱいありました。自分も3年後これが建築だと叫べるような作品を作りたいと思いました。この1年間建築を好きになり、建築について考えるきっかけやヒントをもらいました。そこでこれからの抱負として、2年生になったら、建築を知り、やりたいことを考え、やりたいことをする準備ができればと思っています。講義で学び本を読み様々なことを体験していきたいです。



日建学院では、泉会ご協力の下 現役東洋大生から卒業生までこれからも全力で応援致します!

現役生へ朗報!!

2年生 宅建セミナー.....

もちろん無料。
なりたい自分にステップアップ。

昨年から始まった取り組みです。

「学生の今できること」をテーマに資格がなぜ
有利でどう役立つかを「宅建」を例に取り上げます。

(泉会協賛:産学協同実習 5月28日(水))

4年生

M1生 建築士講座.....

M2生

教材費(¥5,400)のみ。
未来の建築士を応援します。

今年から始まる新たな取り組みです。

今後の建築業界を鑑み、
建築士取得を意識した講座を
在学中に「キャンパス内」で行います。

(泉会協賛:9月~11月)

全学年 3万円(税抜)~.....

特典学費で受講できます。

宅建・インテリアコーディネーター・
ファイナンシャルプランナー など。

卒業生へ朗報!!

特別割引のご案内

通学講座

通学講座
(集合型学習)
の特徴

- 多人数制なので競争意識が芽生え学習意欲が高まる。
- 決められたスケジュールの中で効率的に学習が進められる。

講座名	一般学費	大学卒業生学費
1級建築士 学科本科講座	540,000円	462,240円
1級建築施工管理技士 学科講座	270,000円	225,720円

Web講座

Web学習
の特徴

- 遠隔地や仕事等の理由でなかなか通学できない方でも学習可能。
- 自分のライフスタイルに合わせて学習を進められる。

講座名	一般学費	大学卒業生学費
1級建築士 学科Web講座	324,000円	162,000円
2級建築士 学科Web講座	324,000円	153,360円
宅地建物取引主任者Web講座	108,000円	86,400円

*表示されている学費は税込価格です。



あなたの「夢」応援します。

日建学院

全国170校 最寄校に利用が可能です。
まずはお気軽に川越校までご連絡下さい。

【お申し込み・お問い合わせ】

日建学院 川越校 事務局

〒350-1159 埼玉県川越市中台2-20-4

TEL:049-243-3611



 **総合資格学院** は東洋大生の資格取得を全面的にサポートします!

見据えるのは合格とその先。

合格はもちろん、皆さんが将来活躍できる「力」を育てたい、それが総合資格学院の願いです。

重要なのは「今」の試験の合格実績! 合格者数No.1の総合資格学院!

平成25年度 1級建築士 設計製図試験

全国
No.1
合格者占有率

37都道府県での開講にもかかわらず全国の合格者のおよそ6割が当学院現役受講生!

55.8%

他講習利用者+独学者
当学院現役受講生

全国合格者4,014名中、当学院現役受講生2,238名

埼玉県の合格者の6割以上は当学院現役受講生!

埼玉県合格者268名中/161名

埼玉県合格者占有率 **60.1%**

東洋大学 卒業合格者

30名中、24名が当学院の講座を利用して合格!

当学院利用率 **80.0%**

※都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表の受験番号より算出。※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。<平成25年12月19日現在>
※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受講生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

 **総合資格学院**

<http://www.shikaku.co.jp>

総合資格

検索

1級・2級 建築士 | 1級・2級 建築施工管理技士 | 1級・2級 土木施工管理技士 | 構造設計1級建築士 | 宅地建物取引主任者 | インテリアコーディネーター

お問い合わせは、
最寄校までお気軽に!

川越校

〒350-1123 埼玉県川越市殿田本町10-16 BOビル 1F
TEL.049-291-5211

越谷校

〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷1-16-13 日本生命越谷ビル 4F
TEL.048-990-6971

さいたま校

〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町2-16-1 ACROSSビル 5F
TEL.048-642-9811

熊谷校

〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波3-195 熊谷駅前ビル 5F
TEL.048-599-3531